FURUSATO no HOKORI

ふるさとの誇り 其の82

神様は舟に乗ってやってきた?!

～神部神社　曳舟神事～

下宮地の神部神社（※1）に伝わる「曳舟神事」。古くは「船祭」「舟引祭」とも呼ばれ、水のないところで舟を曳く、それは珍しい神事なのです。

朱色の塗りがとても印象的な「神部神社」。平安時代に編さんされた『延喜式』神名帳（※2）に名前がみえる由緒正しい古社で、大和国（奈良）の大神神社（現三輪神社）から祭神である大物主神（三輪明神）をお招きして創建されたといわれ、神事はその時の様子を再現したものだといわれます。

『甲斐国志』（※3）には「船祭トテ遷座ノ時ノ式アリ（中略）船ニテ此ノ地へ渡リ給ヒシ式」と記されており、甲府盆地が湖だったために、神が奈良から船に乗ってやってきたというのです。

実際に甲府盆地が湖水だったとは言い難いのですが、下宮地周辺も水害に苦しんだ歴史がありますので、舟はまさに生命線といえます。また、富士川舟運にみられるように、大切な物資は富士川を上ってきましたから、やはり、舟は生命線といえます。大物主神は水神ともされていますから、そのような表れから、舟で神が渡ってきたという逸話が伝えられているのかもしれませんね。

舟は木製で約150ｃｍ、幅約60cmの大きさです。はじめは拝殿にあがっていますが、その後下ろされ、神事は、主に３つの場面で展開していきます。

SCENE　1
舟曳き

二本の綱を氏子の皆さんで曳いて鳥居の下まで進み、鳥居に向かって宮司が矢を放ちます。四至を祓い除ける意味として矢は4本ずつ2回放たれます。その後、拝殿まで舟を曳いて戻ります。

SCENE　2
歩射での占い

「舟引祭御弓場」と刻まれた石柱の前に的が設置され、鳥居と同じように8本の矢を射て、厄を祓うと同時にこの年の豊穣を占います。

SCENE　3
御遷座式斎場にてくじらの汐吹き

現在では祝詞を唱和していますが、もともとは神様が舟で渡ってきた時にみた光景を、神官と問答している様子を再現していたようで、舟からみた鯨の汐吹きを表現するために、最後には盃に注いだ酒をふりまきます。

いつ、行われるの?

かつては旧暦の2月2日に行われており、現在は3月2日に近い日曜日に行われています。
今年の神事は
平成26年3月2日（日）
13:30～

※駐車場はありません。地域で受け継がれてきた神事です。ご理解をお願いいたします。

物流･交流の生命線

先月号で、南アルプス市は物流や文化の交差点だとご紹介しましたが、富士川や富士川沿いの駿信往還（現在の国道５２号線）は、南北をつなぐ物流・文化の縦糸といえるのです。

今も昔も生命線なのですね。

※1 南アルプス郵便局の南にある神社。
※2 10世紀（平安時代）に編さんされたもので、神名帳に記載された神社は式内社と呼ばれ、ある種の社格を示している。
※3 江戸時代の終り頃に編さんされた甲斐国の地誌。